

平成 2 2 年 度
事業計画書及び収支予算書

平成 2 2 年 度
事 業 計 画 書

財団法人 日本宇宙少年団

平成22年度 事業計画書

I. 目的

宇宙及び科学への関心と理解増進を推進する事業を通じて、団員を中心とした青少年の宇宙への夢と探求心の醸成を図るとともに、国際社会に貢献できる将来の人材育成を目的として事業を実施する。

II. 概要

昨年度設置された本部運営委員会のもと、団員及び分団活動の拡充、教材・プログラム開発、リーダー育成、アウトリーチ活動などを行う本部事業に加え、宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という。）との宇宙教育活動に関する協定書に基づき、JAXAと連携・協力しながら、宇宙教育の実践と裾野の拡大を行う。さらに、自治体・企業等と連携・協力した活動を実施する。

III. 事業の実施計画

各事業の実施計画は次のとおりである。

III-1. 本部事業

【1】 運営委員会の運営

YAC本部長のもと、活動・運営方針の検討を行う全体委員会のほか、共通プログラム、団員に係る調整を検討する子ども部会、リーダーの育成を検討する指導者育成部会、教材開発を検討する教材開発部会、活動に係る財政的支援、アウトリーチ策を検討するおとな部会からなる運営委員会を運営する。

【2】 分団活動の拡充

分団等の活動をより一層効果的に支援するために、以下の事業を実施する。

1. 分団の運営支援

分団の活動状況及び人材（団員・指導員）に関する情報、データの収集・管理を行うとともに、分団運営に有効な情報、資料等の提供を行う。

2. 地区連絡協議会の活動推進
分団相互の情報交換や研修を行うことを目的に、全国9地区（北海道・東北・関東・北陸信越・東海・近畿・中国・四国・九州）の地区連絡協議会の設置及び活動を推進する。
3. 分団長会議
地方本部長、支部長及び分団長の参加による「全国分団長会議」を開催し、より多くの情報及び意見の交換を行い分団活動の活性化を図る。
4. 教材についての情報提供
各種教材の指導方法及び入手方法について、ホームページ等を通して情報の提供を行う。

【3】 分団結成及び団員拡大

JAXAの宇宙教育の拠点化による全国展開施策と連携し、分団結成及び団員拡大を図るとともに関係機関への協力要請を行う。

1. 分団及び団員の拡大
 - (1) 地域の自治体関係者や教育関係者等の関係機関に対し、新分団の結成及び団員拡大に関する協力と支援を依頼する。
 - (2) 新規に分団等の結成を検討又は計画している地区、団体等に対して積極的に助言及び指導を行い、必要に応じて、活動している分団に協力を要請する。
 - (3) 新規分団の結団にあたっては、職員を派遣し支援を行う。

【4】 JAXA及び科学館等との連携

宇宙教育員活動の推進にあたっては、JAXA及び科学館等との連携を図り、宇宙教育活動の裾野の拡大を図る。

【5】 情報の提供及び広報活動

団員等へ情報の提供を行うとともに、広く一般へ情報提供することにより分団活動への理解を得る。

1. 青少年に対する情報誌の発行等
 - (1) 宇宙情報誌の送付
JAXAと協力し、宇宙情報誌を製作し、団員等へ年4回程度宇宙情報誌の送付を行う。

2. ホームページ等による情報の提供
本部・分団の情報を迅速に分団、団員及び一般の利用者に公開するとともに、本部と分団のホームページをリンクし、分団活動の状況等を閲覧者に提供する。
3. マスメディアによる広報活動
事業の周知を幅広く行うために、広報ツールの充実を図るとともに、メディア等に対して積極的な情報の提供を行う。
4. グッズの製作及び販売
YAC独自のグッズを製作するとともに、各種イベントの開催時等において販売し、YACの存在をアピールする。

【6】 普及啓発事業

宇宙・科学に関する知識の普及啓発を目的として以下の事業を行う。

1. 種子島スペースキャンプ2010
種子島宇宙センターの見学、自然環境学習、キャンプ実習等をカリキュラムとした体験形式の「種子島スペースキャンプ」を開催し、青少年の宇宙及び地球環境への理解増進と併せて健全な人材育成を図る。
【平成22年8月】
2. つくばスペースキャンプ2010
筑波宇宙センター内において、特別見学、宇宙飛行士模擬訓練、GPS宝探し、専門家との交流など体験形式の「つくばスペースキャンプ」を開催し、青少年の宇宙及び地球環境への理解増進と併せて健全な人材育成を図る。
【年10回程度】
3. 日本水ロケットコンテスト2010
宇宙教育活動の素材として格好である水ロケットの飛距離、高度のほか、予め決められた定点へのアプローチ度、そしてアイデアデザインなどを競い合う全国大会を開催する。全国各地で開催される予選地区大会の代表が集い、水ロケット競技のほか、専門家による講演や青少年交流も行う。
【平成22年9月】
4. ハローヒューストン
テレビ会議システムを活用し、米国・ヒューストンで訓練中の日本人宇宙飛行士との交流機会を設け、団員と宇宙飛行士の直接対話・質問により、有人宇宙活動への理解を増進し、団員の宇宙への夢やあこがれを醸成させる。

【数回程度・時期未定】

5. 子ども衛星アイデアコンテスト

全国の小中学生に、「人工衛星のアイデアを提案する」という課題に取り組む機会を提供し、宇宙を身近に感じるとともに地球・生命の大切さや宇宙開発の意義などを学んでもらう。

【平成22年8月】

6. JAXA施設公開での出展

JAXAの施設公開にあわせて、科学実験や科学工作を紹介する。

【平成22年4月・9月】

7. 講演会等への講師派遣

宇宙・科学の普及啓発を目的とした講演会等に講師の派遣を行う。

【数回程度・時期未定】

8. 教材の製作・配布

活動教材を製作し、分団・団員へ配布する。

【数回程度・時期未定】

Ⅲ－2. その他

当財団の目的を達成するために必要な事業を行う。

平成 2 2 年 度
収 支 予 算 書

財団法人 日本宇宙少年団

平成22年度 収支予算書

【平成 22年4月1日から平成 23年3月31日まで】

単位:千円

科 目	H22年度予算額	前年度予算額	対前年度増減額	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 会費収入	14,000	14,000	0	
団員会費収入	7,000	7,000	0	
賛助会費収入	7,000	7,000	0	
② 事業収入	1,700	29,940	△ 28,240	
(1)物販・貸出事業収入	1,000	400	600	
(2)イベント事業収入	700	15,000	△ 14,300	
(3)水口ケツ大会収入	0	12,500	△ 12,500	
(4)催事参加費収入	0	2,040	△ 2,040	
③ 補助金等収入	0	10,000	△ 10,000	
④ 受託事業収入	10,000	171,000	△ 161,000	
⑤ 雑収入	100	470	△ 370	
事業活動収入計	25,800	225,410	△ 199,610	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	18,140	167,063	△ 148,923	
(直接経費計)				
(1)本部事業支出	3,000	8,540	△ 5,540	
(2)イベント事業経費支出	400	21,300	△ 20,900	
(3)補助金等事業支出	0	10,000	△ 10,000	
(4)受託事業支出	7,000	80,000	△ 73,000	
(5)物販・貸出事業支出	800	320	480	
(間接経費計)				
(1)人件費支出	5,000	39,344	△ 34,344	
(2)管理経費支出	1,940	7,559	△ 5,619	
② 一般管理費支出	6,660	51,021	△ 44,361	
(1)人件費支出	2,000	27,986	△ 25,986	
(2)管理経費支出	4,660	23,035	△ 18,375	
③ 法人税等支出	1,000	4,500	△ 3,500	
法人税等支出	1,000	4,500	△ 3,500	
事業活動支出計	25,800	222,584	△ 196,784	
事業活動収支差額	0	2,826	△ 2,826	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
① 退職給付引当資産	0	2,826	△ 2,826	
② 減価償却引当資産	0	0	0	
投資活動支出計	0	2,826	△ 2,826	
投資活動収支差額	0	△ 2,826	2,826	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
① 借入金収入	20,000	30,000	△ 10,000	
財務活動収入計	20,000	30,000	△ 10,000	
2. 財務活動支出				
① 借入返済支出	20,000	30,000	△ 10,000	
財務活動支出計	20,000	30,000	△ 10,000	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	67,263	65,705	1,558	
次期繰越収支差額	67,263	65,705	1,558	